

西大巔：東斜面・南西ルート山スキー報告

【山城】福島・西大巔

【日程と天気】2016年2月27日 晴れ（はじめ山頂付近はガスと風がやや強い）

【メンバー】CL 菊池・古関・加藤・石井

【行程】グランデコスキー場トップ（3Q降り口：1580m）－西大巔山頂（1982m）－東斜面滑走（標高差 150m）－西大巔山頂－南西ルート－百貫清水付近（標高 1300m：東に少し離れた地点－シールにて登山道ルート経由－ゲレンデ



・2月は低気圧の発達、高温が2回あり、積雪は一時大分減ったが最近、短い周期で冬型が2回ほどやってきたため、再び積雪は増加し、グランデコスキー場の積雪は260cmであった。（前回の西大巔東斜面撃沈の2/11の積雪は270cm）2/11は多人数入山していたが、今回は比較的少ない

・NBSC（新潟バックカントリー：小生も所属）と合流して3Qの降り口から・西吾妻二十日平を目的に入山した。
前回（2/11）ほどの新雪量ではないが、40cm前後の新雪、下地は固い弱層が形成されており、先頭を切ってラッセルを始めたが、それほど苦勞する状態ではない。すぐに10



名ほどの小山山岳会のパーティ（若いメンバーも多いが、年配の方に聞いてみると、2週間前の二十日平は下部の1410m付近の中ノ沢の渡渉は、雪で埋まっており問題ないとのこと）に先行していただきその後、前後しながら山頂に向かった。上部はガスで視界不良・風がやや強かったが、山頂直下のオープン斜面まで来るとガスが晴れてきてテンションがアップしてきた。前回まあまあのモンスターができていたが、最近の暖かい陽気の繰り返しにより雪が落ちてしまいモンスターは姿を消していた。蔵王でも同様とのことである。



・西大巔山頂に到達した時点では再びガスが出てきて、西吾妻方面は視界不良、行動食を採り、とりあえず東斜面を一本とそそくさと準備した。滑走準備ができたころ、ガスが晴れてきて、美味しそうな東斜面の大斜面が手招きしていた。

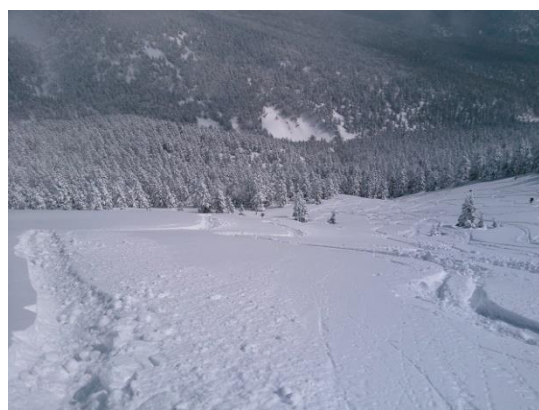
先行シュプールにもう我慢できない、弱層があるものの、25度強の斜面のため雪崩の心配はなさそうである。底ありパウダーは

60 cm前後の深さ、センター幅 88 mmのG 3 (TM) でも浮遊感たっぷりの極楽パウダーランに酔いしれた。始めてこの斜面を滑走したのは、テレマークを初めて間もなく細板（フィッシャーGTS）とスカルパの革靴でペンションポローニアの深雪講習の時（18年前）である。雪質は良かったが全くターンできなかった。その後、深雪練習を重ね、太・プラブーツの恩恵にあずかりデープパウダーランを楽しんでいます。

その後はこの斜面の滑走経験はなかったが、今期は3回目である。そして、今回遂にこの斜面の本当の素晴らしさを実感できた。年甲斐もなくモンキーのように終始雄叫びをあげながらの滑走であった。

NBSC とわがパーティのみ、ボトムのボトムまで標高差約 150m、滑走しつくした。思い残すことなし！！「夏草や兵どもが夢のあと」、大斜面は食いつぶされていた。

・すっかり天気回復、極楽パウダーランの余韻に浸りながらの登り返し、西吾妻方面の





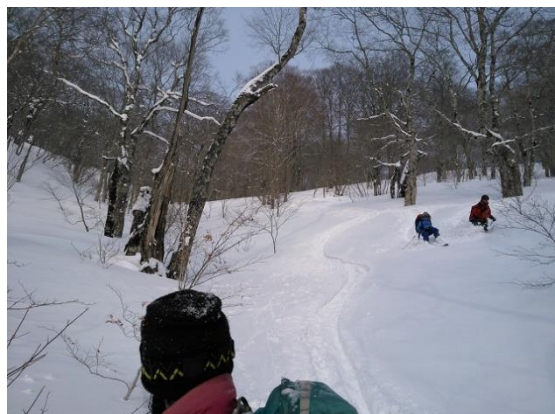
景色が素晴らしいが、時間的にも、体力的にも、二十日平は諦めた。山頂で行動食休憩をとり、NBSCと記念撮影し南西ルートを下ることとした。スタート直後は西方向に少し進んで観察しながら下ったが、急な斜面は密なシラビソ林で凹凸が激しく苦勞した。南西ルートに方向転換しながら少し下ると、間もなく斜度が緩み開けた斜面のサイドにはシラビソの樹氷群が素晴らしかった。徐々に滑りやすい適度な斜度のシラビソ林間と



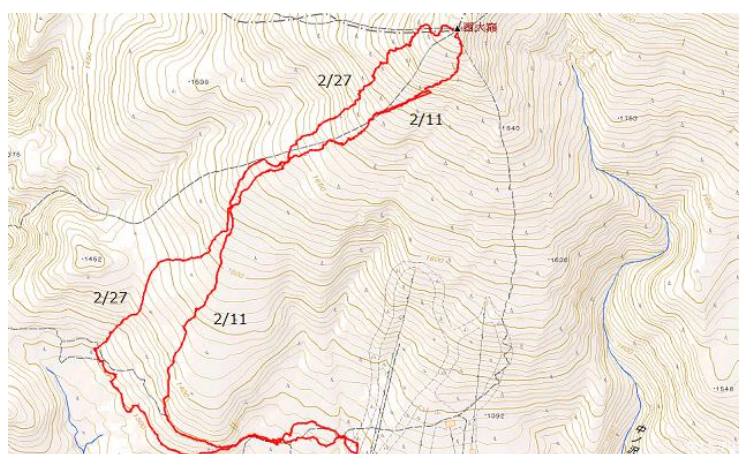
なり、今回も上質な滑りやすいパウダーに皆さん、思い思いのシュプールを刻んでいった。



・途中昼食休憩を取り、快適なブナ林滑走で百貫清水の東付近（標高 1300m）まで滑走した。シールを付けて少しずつ高度を上げながら、登山道ルートに合流すべくGPS



をチェックしながらゲレンデへの東進を始めた。小さな沢地形が2～3ヶ所あり、高巻いたりしながら登山道ルートに復帰、最後の比較的深い谷にかかる橋の上を通過すると間もなく 1350mのゲレンデに戻れた。最後のシール歩行の所要時間は約 1 時間であった。



・二十日平の滑走は実現できなかったが、東斜面の素晴らしいパウダーランを始めて味わうことができ、また再度南西ルートの快適なツリーランを楽しめ、充実した一日であった。